

令和元年度第1回東北森林管理局国有林材供給調整検討委員会（概要）

- 1 開催日時 令和元年6月13日(木) 15:00～17:00
- 2 場 所 東北森林管理局 2階 大会議室
- 3 出席者 黒瀧委員、小野寺委員、高橋委員、林委員、守屋委員、大坂委員、佐々木委員、安部委員
- 4 検討結果 製材、合板用のカラマツ及び製紙用をはじめとするチップ原料の引き合いは依然として強く、素材の不足感があるものの、スギをはじめとする全体的な需要動向は保合で推移している。
また、原木価格及び製品価格についても比較的安定しており、需給バランスが保たれている状況となっている。
以上のことから、現在のところ供給調整の必要はなく、国有林には今後も需給動向を注視していただくようお願いする。

5 主な意見

- (1) 国産材の需給等
 - ① 7月以降は原木の出材量が減少すると予想される。昨年夏以降に原木が不足したことを探まえて各工場は在庫を多めに抱えているが、それでも新工場（青森県）の稼働もあり秋口の原木不足が予想される。
 - ② 製材用素材は在庫が安定しており価格も横ばいを維持する見通し。
 - ③ 合板用材について、スギは安定。カラマツは引き続き引き合い強く高値保合。
 - ④ 低質材はバイオマス用、製紙用とともに地域差があるが高値推移で引き合いも強い。
- (2) 他地域への輸送・輸出
 - ① 西日本の在庫は今のところ十分だが、大型工場の新設もあり東北からの集材も強まると思われる。
 - ② 北海道からのカラマツ・トドマツ等の供給は回復しているが、道内需要が旺盛なため、十分な量とはなっていない
 - ③ スギ低質材の輸出オファーがあるが、バイオマス向けや製紙用低質材との価格差次第。酒田港から中国向けの原木輸出が始まり、今後も伸びが予想される。